

# サーキット・ライダー2005年11月号

## いつも喜んで感謝できますか？

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい・・・。

テサロニケの信徒への手紙一5：16-18

今月は感謝祭にちなんで、再度テサロニケの信徒への手紙からの引用です。この3つは実に簡潔な教えですが、実行するのは真に困難です。これらは実は教えではなく戒めです。つまり守らなければならない、どんな時でも、どんな状況でも。

昨年の中越震災以降、世界中で天災による被害が出ています。昨年末のインドネシア沖地震と津波、台湾、日本、中国各地での台風被害、アメリカではハリケーン・カテナの来襲でルイジアナ州ニューオーリンズの町々が浸水し多くの方が家を失いました。その直後、今度はパキスタン、インド北部での大地震・・・。カルト集団でなくても「人知を超えた天災」に何か神の怒りを見出そうとする人が出てくるのも分からないではありません。しかし私たちの信じている神はそのような不幸を人間にもたらずお方ではありません。神の裁きを安っぽく持ち出すことはたしなめられなければなりません。

話を戻しますが、震災で家族、友人を失った人達、家や財産を失った人達に「喜んでいなさい。」「どんなことにも感謝しなさい。」と言うのは余りにも手前勝手に無神経な気がします。またそのような災難でなくても、身近な所で、失恋したばかりの方、夫婦、親子の不和で苦しんでいる方、友人関係で躓いた方、大学受験に失敗した受験生、仕事で重大なミスを犯した、或いは失職した方に「喜びなさい。」「感謝しなさい。」とは言えないでしょう。しかしこの手紙の作者、使徒パウロはそれでも「喜んでいなさい。」「絶えず祈りなさい。」「どんなことにも感謝しなさい。」と命じています。

私のように大した人生経験もなくあまり苦勞も背負わずにきた人間でも、それなりに悲しかったことや苦しかった時期があります。そのような時を思い返してみると、どうも一人よがりになっていたような気がします。まるで一人で世界の重荷を背負っているような。苦しい時に「辛い、辛い」と自己の内面ばかり見ていると、益々内に籠ってしまい抜け出せなくなります。そのような時にふと目を上げて周りを見回すと、実は自分と同じような辛い思いをしている人が沢山いることに気が付いたり、或いは、自分のような人間の助けさえ必要とするような、もっともっと辛いところにいる人達がいることに気が付きます。間違っただけで下さない。苦しみや悲しみは比べるものでもありませんし、比べてはいけないものです。が、ここで言いたいのは、自分と同じような人が沢山いて、その人達は自分の苦しみを解ってくれ、また自分もその人達に何かしらできるという事実です。

どのような状況にいても、どのような苦境にあっても、「人（自分）は何かができる」と知ったら、その人は前向きに歩めるのではないのでしょうか。喜び、感謝することは、前向きに進む第一歩でしょう。パウロはキリスト教徒の迫害者でしたが、回心してキリストを宣べ伝える者となりました。そして地中海各地を巡回して教会を建てていきました。テサロニケでもギリシャ人に伝道し教会の礎を作りましたが、キリスト教をユダヤ教の亜流、新興宗教として拒否した、本来なら同胞であるユダヤ人から迫害され、その地を追われました。その後も彼の受難は続きます。時に鞭打たれ、石を投げられ、最後は屋敷牢獄に幽閉され、ローマで殉教死しています。それでも彼は、彼が伝道した人々、テサロニケのクリスチャンに「いつも喜んでいなさい。」「絶えず祈りなさい。」「どんなことにも感謝しなさい。」と激励の手紙を送りました。

この精神は感謝祭を始めた巡礼教父（母）と呼ばれる、新大陸アメリカの初代一般移民にも受け継がれていました。1620年、自由に自分たちの信じているプロテスタント・キリスト教信仰を守れる新世界、約束の地を夢見てメイ・フラワー号で来た移民達でしたが、アメリカ東部の厳しい冬、慣れない開拓生活に総数102名の半数が亡くなってしまいました。しかし生き残った人々は翌年の秋に（インディアンと呼ばれていた）現地人から教わった穀物の収穫——僅かな物だったそうですが——を祝って神に感謝を捧げました。家族、仲間を失った悲しみを乗り越えて、彼らは収穫を与えて下さった神に感謝を捧げたのです。そればかりか、彼らは現地人と差別することなく収穫を分かち合い、感謝を捧げたのです。その後のアメリカは時に法律で、また巧妙に見えない形で人種差別しているところを考えると、感謝祭を始めた人々の「感謝する心」「喜びを互いに分かち合う姿勢」「祈り」を私達も学ばなければならないのではないかと思います。皆様、良い感謝祭をお過ごしください。吉松 純

**\*Jr.教会（教会学校）は午後3時からです。**

**\*祈りたい方の為に礼拝堂を午後2時30分より開放しています。どうぞご利用ください。**

**\*聖日予定：礼拝時間は午後3時です。**

11月 6日：自由祈禱会、聖餐式礼拝。Jr.教会：ノアの箱舟のお話、ユーリズミー。

13日：自由祈禱会、礼拝、Jr.教会：歌、ユーリズミー、夕ご飯の準備。

20日：午後1時より年次総会。礼拝は午後4時からです。Jr.教会：いろはカルタ作り、歌、ユーリズミー。午後7時より、エキュメニカル感謝祭礼拝、ルーテル教会にて。

27日：自由祈禱会、アドベント（待降節）第一礼拝、Jr.教会：いろはカルタ、歌、ユーリズミー

12月 4日：自由祈禱会、アドベント第二礼拝、聖餐式、Jr.教会：いろはカルタ、歌、ユーリズミー

#### **\*行事予定と報告**

\*15日（火）午後2時30分より、フォートリーBethany United Methodist Church（Main St パリジェンヌから西に2ブロック）で親子の会をします。今回は松尾タカエ姉の指導で母と子のユーリズミーを学びます。皆さん、お誘い併せの上お出で下さい。

\*18日（金）午前10時30分より、牧師館にて聖書の学びがあります。どうぞご参加下さい。

\*20日（日）午後1時より教会年次総会。パークリッジ合同メソジスト教会運営の為に総会です。日本語ミニストリーの皆さんもご出席下さい。

午後7時より、ウッドクリフのルーテル教会にて、ユダヤ教、キリスト教合同感謝祭礼拝。この地域の諸教会、寺院が集まる年に一度の合同礼拝です。どうぞご参加下さい。

\*24日（木）午後5時より、感謝祭特別礼拝。礼拝中、保存の効く食べ物を持ち寄り献品します。捧げられた食べ物は町のフード・センター及びCUMAC/ECHOに寄付し、より多くの人々に配られます。

礼拝後、午後6時より、感謝祭祝会。持ち寄り夕食会です。教会で七面鳥は用意します。どうぞご参加下さい。

**\*御協力お願い致します。献金のあて先はUMC-JAとし、寄付のあて先をNoteに記してください。**

\*ハリケーン・カタリナとリタの被災者救済献金を受け付けています。献金は合同メソジスト教団を通して、被災地に送られます。ご協力下さい。

\*引き続きインドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金をしています。ご協力お願いします。

\*ハーベスト・タイム放映の為に、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

\*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）に送ります。JOCsは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

\*心臓病を患う子供の救援団体HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）にもご協力下さい。

\*ケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

\*パターソンのSt. Philip伝道と社会福祉団体CUMAC/ECHOの為に。どちらもメソジスト教団に属し、貧しい人達の為に炊き出しと路傍伝道をしています。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 [pastor@umc-japan.org](mailto:pastor@umc-japan.org)

教会学校担当：松尾タカエ姉（201）802-1769 [takae17A@AOL.com](mailto:takae17A@AOL.com)